

令和 6 年度第 2 回大船渡市スポーツ推進審議会

日 時 令和 7 年 1 月 24 日(金) 午後 1 時 55 分～午後 4 時 10 分

場 所 大船渡市役所 第 2 会議室

出席者 大船渡市スポーツ推進審議会委員 7 人

新沼良治会長、東芳江副会長、木下淳委員、金野乃士委員、栗村安弘委員、
谷山誠志委員、渡辺信子委員

大船渡市

協働まちづくり部長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、スポーツ推進係長

〔会議内容〕

1 開 会

挨拶（新沼会長）

新年明けましておめでとう。本年もよろしく願います。本日は多用のところ参会をいただき感謝する。さて、前は 5 月に審議会を開催したが、私から一言話したいことがあるので聞いていただきたい。前は、市営球場の在り方について、私から多くの質問、意見を述べた。それに対しての当局の回答に、納得のいかないものもあった。例えば、野球場の関係者と連絡を取ったと言っていたが、肝心の野球協会には、情報が届いておらず、大変残念であった。私は硬式野球経験者で、だからといって無理くり野球場を造れというわけではない。昨年は岩手日報に将来消滅しうる県内 26 市町村の一つに、当市が該当していると掲載された。そのような状況の中で、スポーツ施設に係る数十億円の予算を動かす一翼を私たちも担っている。私は皆様方のように、ずっと大船渡市で暮らしてきたわけではなく、人生の半分以上は他市町村で生活してきた。だけれども、大船渡市民がスポーツにより、より豊かに、より健康的に過ごしていただくために、将来にわたって有用な形は何なのかを考えながら、発言しているつもりである。これまで数年にわたって新設の方向で進められてきたスポーツ施設の件がある日の会議で突然覆された。東海新報の記事にもなった。会議の際には検討事項としてほしいと言ったが、それすらもできないとのことだった。それは当局の会議の設定時期に問題があると私は思っている。これらを考えるとこのスポーツ推進審議会の役割は何なのだろうと考えてしまう。本日は前回の事務局案とはまた異なった案件が準備されている。民意という大事な観点からすると、皆様方一人一人のご意見がより貴重なものとなるので、ご審議のほどお願い申し上げる。かと言って、全て事務局案に反対しているわけではない。一緒になって将来を考えたいということが私の気持ちである。

2 協 議

第 1 号 大船渡市スポーツ推進計画の評価・検証について

事務局より、資料 1 ～ 3 のとおり説明した。

〈結論〉

原案のとおり承認した。

〈意見・質疑応答〉

- ・ （新沼会長）資料の 2、4 ページで令和 5 年度の利用人数がコロナ禍でもあった令和 4 年度より下回っているのはなぜか。本来は令和 5 年度にはコロナが開けたので、上回

ってほしかったという私の感想である。

- （生涯学習課長）利用人数の推移について、回復傾向となっているが、令和3年度、令和4年度には、コロナワクチン接種という特殊な事情があって、市民体育館の利用者数が激増しているので、それを除くと概ね令和2年度に急激に減少した後に、現在は回復傾向になっている状況と分析したところである。
 - ・ （新沼会長）やっている事業関係については何もないが、小中高生あたりに特化した支援事業がそろそろ何かあってもいいのかなと思っている。
 - ・ （栗村委員）資料3(2)の進捗状況の部分で、住田町と連携して取り組んだスポーツは何のスポーツだったのか。
- （生涯学習課長）実績はまだないところである。大船渡市と住田町で定住自立圏ビジョンがあって、いろいろな公共施設を共同で使っていきたいという活動をしている。スポーツの施策についても、住田町のスポーツ施設を使用して、大船渡に宿泊した場合は、大船渡市から補助金を交付し、逆に大船渡市のスポーツ施設を使用して、住田町に宿泊した場合は、住田町から補助金を交付するという制度設計をしているものである。
 - ・ （栗村委員）BMXの来場が1,000名とあるが、結構な人数で、県内持ち回りの大会なのか。
- （課長補佐）こちらについては全国で行われていて、岩手大会の会場として開催されたものであり、来場者は全国から来ている。
 - ・ （栗村委員）地元住民でBMXに参加している方はいるのか。
- （協働まちづくり部長）地元の参加者は把握していないが、どちらかというと外部からの参加者が多いようで、地元に着させるための取組も行われているようであるが、競技人口の増加までには至っていない。
 - ・ （金野委員）このBMXの施設は東北にここしかない。
 - ・ （渡辺委員）うちの綾里小の児童もBMXの教室に参加しているようである。
 - ・ （新沼会長）協議第1号は承認とする。

第2号 大船渡市スポーツ施設整備基本計画中間見直し（案）について

事務局より、資料4のとおり説明した。

〈結論〉

原案のとおり承認した。

〈意見・質疑応答〉

- ・ （新沼会長）第2号議案は、市民体育館とテニスコートと市営球場の3点に分けて質疑等を進行することとする。事務局から以前に市民テニスコートの増設の話があったのだが、現況を踏まえると、まだその時期ではないということで、これまでの話はなしとして、ただし引き続き検討していくということで事務局案の説明があったがいかがか。
- ・ （栗村委員）増設については、県大会、東北規模の大会があと3面増設すると誘致できるという覚えがある。県内のテニス競技人口は横ばいなのか。ある程度年をとっても健康意識が云々とあるが、それを意識して年をとっても始めている人はそこそこいるとの認識でよいのか。
- （生涯学習課長）増設の方針は、令和3年1月に策定した当初計画のもので、その際に、市内の様々なスポーツ施設の状況をみて、計画したわけで、テニス人口が減っているというよりは、新たなテニスコートが野活に8面できたり、一中にも人工芝コートが4面できた。それから茶屋前緑地公園に1面できたということで、策定当初の状況から

テニスコート施設が近くに増えてきた状況で、市民テニスコートの利用が減少していると分析している。大会については、野活の方も利用されているようだし、大船渡でも一部開催されているようだが、増設整備したときに、施設の利用率が現時点では見込めないということで、引き続き部活動の地域移行という取組もしているので、まとまって市民テニスコートで練習しようという流れになれば、また利用が増えるのではないかと。もう一つは、生涯スポーツとしてこれから新たに取組む方々があれば、また利用が増えていくのではないかとということで、計画後期で整備するという方針であったが、引き続き状況をみて、慎重に判断していこうというふうの方針を考えたところである。

- （協働まちづくり部長）補足になるが、8面という話は、例えば県大会クラスの大会を開催するには8面が必要で、こちらの予約でいっぱいになることを踏まえて、もう少しあと3面増設したいということで、増設するのであれば県大会を誘致できるよう8面ということで、計画当初は考えたものだが、今生涯学習課長が申し上げたとおり、昨今は状況が大きく変わって、利活用の状況が当初の想定よりも伸びていないこともある。将来的に利用が増えてくることもあるので、まるっきり整備をやめるということではなく、本当に増設が必要かどうかを後期の中で検討して結論を出していくということで方針を見直している。
- ・ （栗村委員）部活動の地域移行という中で、地域に移行した場合に、地域の指導者が何のスポーツにおいても同じだが、会場の取り合いにはならないと思うが、そういったことを踏まえれば、この先を考えていくということで理解した。
- ・ （新沼会長）一般人が一中のテニスコートを借りにくいということを聞いたが、実際はどうなのか分からないが、中学校が主体と思うが、空いているときには使用できないものか。
- （協働まちづくり部長）学校体育施設の開放はグラウンドと体育館だけで、その他の柔道場、テニスコートなどの施設は開放していない。なぜ開放しないのかという疑義はあるかと思うが、教育委員会の判断が入ってくるので、正直こちらとしても痛し痒しのところがある。今後の課題でもあり、一般開放すると施設の消耗が進むということもあるので、体育館とグラウンド以外は一般に貸し出さないところで、一中と同様に東朋中のテニスコートも貸出しはしていないところである。その辺の施設の在り方については、今後の部活動の地域移行の中で検討が必要だと思っている。
- ・ （新沼会長）かなりレベルの高い施設なので、そう聞けばそれもありかなと思う。市民テニスコートは事務局案の方向で承認とする。
- ・ （新沼会長）市民体育館について、使用頻度や種目が多いこと、多目的に使用することも可能であるので、市民体育館が最優先事項と思われる。市民体育館も事務局案の方向で承認とする。
- ・ （新沼会長）去年の5月の会議では、軟式野球に特化した球場にするという話があった。私が硬式野球に変えると聞いたのは、今週の火曜日だった。私にしてみれば、あんなに質問したのにつれない返事があって、なぜこんなに変わるのかという気持ちがある。
- ・ （栗村委員）硬式対応にするということは、面積が広くなるということか。
- ・ （谷山委員）現状を広げることは難しいので、防球ネットを高くすることだと理解している。
- （生涯学習課長）軟式と硬式の違いとして、望まれる大きさがあって、現在の市営球場は望まれる基準にはなっていないが、試合はできる。ほかの県内や全国の球場で、大船渡市営球場より狭い球場でも、硬式野球の試合は行われているので、試合自体はできるが、安全対策といったところが求められる状況である。

- ・（栗村委員）市営球場を直すとなると、水回りをしっかり直さないと駄目なのではないか。
- （協働まちづくり部長）そういった話はあるので、そこは見込んでやる。ダッグアウトとベンチが雨の後に排水不全で、水はけが悪い状況で、使った人から、常に問題点として指摘されているので、当然排水は直すことを考えている。
- ・（新沼会長）今配付させていただいた用紙の中で、11番の北上の岩崎野球場だけは行ったことがないが、そのほか、記載の全ての球場に行っている。9番の衣川球場にバツがついているが、広さはいいのだが、硬式野球ができるような土の整備状況ではないのでバツをつけた。これを見ると、それ以外の球場は全て硬式の試合が可能だということである。こういう状況下で軟式野球に特化した球場ということで、私はどうかなというふうに考えたわけである。これがその根拠である。なので、硬式野球ができる球場という事務局案には、賛成である。ただし、それにはいろいろと問題があるということで、私は、結論から言うと、あそこで硬式の公式試合を開催するのには無理があるのかなと考えている。その根拠は何かというと、民家にファウルボールが飛ぶために、特にライト側は6mのフェンスが建っており、何回も見に行っているし、今朝も見に行ってきたが、6mのフェンスがあり、それでも越える可能性がある。それから皆さん硬式のボールで一番飛んでいく場所はどこか。
- （協働まちづくり部長）ファウルが飛ぶのは、たぶん一塁側か三塁側のアルプス席ではなく内野席を越えるようなものではないか。
- ・（新沼会長）違う。飛ぶのはポール際である。実は世田米球場にも一昨日行ってきた。球場の管理人の松田さんという方から、二、三十分いろいろとお話を聞いてきたが住田球場は、14.5mのネットがある。なぜかバックネット裏にはなかった。その14.5mのネットをネットポールのファウルゾーンに越えていく。このように14.5mと書いてあるが、ちょっと厳しいかなと思う。それからネットを建てるということだが、大船渡の球場はグラウンドから座席までの間が非常に短い。それだけ、ファウルボールが飛ぶ可能性が高くなる。そうすると、末崎中学校のグラウンドの方にネットを建てるなら建てなければならない。14.5mだとしてもそれを越えるということである。それがどれくらいの高さになれば、大丈夫なのかというのは、おそらく専門家を通さないと分からないことであり、すごく飛ぶ。そこに駐車場を用意しているというのであれば、おそらく無理である。こういうことがあった。私が一関にいたときに、一関の市営球場で、結構広い球場なのだが、一関工業と練習試合をしたとき、ファウルボールが乗用車に当たって窓ガラスが壊れた。近辺には車が壊れても責任を負わないとの看板が立っているのだが、結局一関工業の学校に行ったら弁償しろとのことになったので、結果的に弁償しないといろいろと支障が出てくるということで、主催者である一関工業が6割、私たちが4割、お支払いした経緯があった。なので、あそこはちょっと駐車場には厳しいかなと考えている。一塁側に14.5mのネットを建てれば、ある程度は防げるかなと思う。ただし、ライトのポール際、今は何もない。あそこに一軒、家があるが、あそこは、一番危ない場所である。コンクリート塀で4、5m、高さ1.5mくらいのコンクリート塀が建っているが、あれは何のために建てたのか分からないが、ファウルを防ぐのであれば無意味である。それから、ライトのポールのインフィールドのスタンドは、フェンスから2mくらいの修理している通路があった。下は空洞である。それくらいしかないのに、社会人とか高校生もそうだが、ホームランを打てば下の民家まで飛んで行く。道路があるので車の危険性もある。あそこに果たして、ネットを建てられるのかなと、そう考えるとちょっと厳しいかなと。プロだととんでもない。飛距離が全然違うので。高校生は、去年から飛ばな

いバットを使用しているが、それでも年々高校生たちも考えるのでパワーが出て来て、またホームランが出てくると思う。そういうことを考えると、フェンス関係は無理なのではないかということである。先ほど、栗村委員からお話がかった水回りである。聞く話によると水圧が低くて水が出ないという話であった。あれも経費が結構かかるのかなと。それから、バックネットは低過ぎる。その後ろの本部席をどうするのかという大きな課題があると思う。今流行りの本部席を造ると後ろの斜めになっている観客席は全部削って取り払わないとならない。本部、アナウンス席、救護、審判控室、最近では障がい者用の見学室、選手の控室、両ベンチからの距離を考えてバックネット裏にトイレがあればよいと考え、ずいぶん大掛かりな工事になりそうだなと思う。何よりも、安全面を考えると、厳しいなということである。それから、球場によっては試合中に大雨が降ると、紫波の町営球場なんかは水がダッグアウトに入ってきて、ポンプで排水する。今時なという感じである。その辺もきちんと造らなければならないと思う。公式大会というので、聞く話によるとマクドナルドの大会でうるさくてクレームが来たということで、会場を変えて開催したという話があって、高校の大会辺りになると、太鼓とかが入るので、ちょっと厳しいと思う。私は、観客席が3千席、4千席なくてもいいと思う。2千人くらい入ればいいのかも思ったりもするのだが、要は住田球場は平成の時代に球場を造ったようだが4億円だと言っていた。今の時代だと4億円で済むかというところが絶対に済まないと思うが、球場の従来の形に囚われないで、野球ができて、観客が安全に試合を見れて、役員の方々が適切に退避できるという駐車場があればという辺りが、お金をかけずに済む建て方ではないかと思う。何を言いたいと言えば、あそこはちょっと厳しいなということである。であれば、前は新球場を造るのに27億円と言っていて、おそらくそのくらいかかなくても、例えば20億くらいでどうにかできないものかなと思ったりもしている。そういう意味では、先ほど今の芝を使って6億円を浮かすという話が出てきたのだが、逆にもう少し経って新しい球場ができないのかなというのが、その方が全部解決するので、ただし、運営費となると若干持ち出しは覚悟しておかなければならないと思う。参考までに住田球場の外野フェンスにある宣伝広告、一企業5万円で20社あるそうだ。約100万円の収入があるそうで、高田球場はなぜかそれよりも安くしたという話であった。なんで安くしたのかなと思ったが、5万円なら5万円で出させるべきだと思った。あとは、グラウンドゴルフの使い道も考えていいのかなとも思ったりしている。それから、役員席関係、ライトを誘致するのは難しいのかなと思っている。高野連辺りも球場の内情とかいろいろと調べるので、例えば、高田と一関の球場を使うとか、そういう形で使ったりしている。なので、使える球場であれば、使ってもらえるのかなと、県大会レベルの試合もできるのかなと、宮古も新しくできたけど、準決勝、決勝は宮古、予選は盛岡でやったりしている。そういう時代である。それから、何よりもネックなのは、知人とそういう話になったのだが、野球協会が今度の事務局案に賛同していないということが、一番厳しい話かなと思っている。野球協会が賛同していないのに、ここで審議ができるのかなと大きな問題がある。

- （協働まちづくり部長）それについては、野球協会とは1月9日に話をし、賛否は別として、市の方針としては建替え再整備は現実的ではないので、大規模改修に方針転換をする。野球協会の意見とすれば新しい球場がほしい。あくまで、野球協会は市の方針に待ったをかけるとか、ひっくり返すという意図ではないとのことだった。
- ・ （新沼会長）私が聞いた話と同じかどうか分からないが、ちょっと言ってみれば市の方では市の方の都合のいいような形での説明が時々あるなと思っていた。話し合ったのが、理解していたとの表現に変わったりとか、これは我々国会議員ではないので、それ

は違うのかなということ、あくまで野球協会は賛同できないとの話だった。説明はしたのだろうが、それには賛同できないとのことだった。

→ （協働まちづくり部長）確かに賛同できないというか、野球協会の意見はあくまで建替え再整備で、我々が話をしたときは、市の判断、意向、方針をひっくり返すとかそこまでは求めているけれども、何とかこれからも要望はしていくからということで、結局、極端なことを言えば、野球協会が賛同しなくても市としては方針を決めざるを得ないので、これが理解を得られるとなると、これがまた3年も5年もかかっていくから、見直しができなくなってしまう。つまり、そうするとまた場所はどうするかとか話が前に戻ってしまっ、あくまで市の全体の方針としては建替え再整備はできないから現地で大規模改修をする。まず体育館を優先的に整備する。そのためには、そこに投資しよう。そのほかのものは、何とか現状を維持していくような方針で進めていくというのが、大きな考え方なので、極端なことを言って野球協会がこれには賛同できないからと言われても、あくまで市の方針としては、これで進めるということはこの間野球協会にも言った。なので、野球協会が賛成していないのに進めるのはどうかということだが、個々の考え方なので、逆に言えばスポーツ協会はこの形でも特に問題ないというふうに、大規模改修でもきちんと野球ができるように直してもらえればそれでいいと言っているの、全体的な調整を取りながら進めるしかないと思っている。赤崎においても、赤崎地区の方からも早く決着をつけてくれと、野球の話になると決着が延びて、話が宙ぶらりんになるということで、今回のこのような方針で出して来たわけで、野球の関係者の皆さんには、現球場の不便さとか様々伺っているの、何とかそこは硬式野球ができるような形で、前はそういったことがあれば軟式野球に特化したほうがいいのではないかとということも考えたが、やはり硬式野球ができない野球場は意味がないという皆さんの意見も理解したので、今回安全対策もしながらあそこを整備し直そうと考えていた。

・ （新沼良治会長）正直言って、私前回あれだけ頑張ったのに検討の余地すらないという話になって、それではどうなんだという話である。事務局があれだけ頑張って方針を変えたというのであれば、硬式野球ができるものであれば新設を考える材料、検討材料としてもいいのではないかと私は思う。先ほども言ったように、私は、野球場を必ず造らなければいけないというわけではない。大船渡市全体のことを考えると、それも致し方ないなというのであれば、それはそうなのかもしれないが、いずれ体育館を含めて60億は、大船渡市の年間の4分の1の予算である。やはりそれを審議するのに、十分な時間をかけないでどうするという気持ちがある。60数億のお金を審議するのであれば、いろいろな意見を出し合って、その中で一番ベストなものを進めなければならないと思う。そういう状況であれば、新設も含めてもう一回検討していただきたいと思う。皆さんがそれまで必要ないというのであれば、いいけれども、この件については、挙手を持って、どういうふうに進めていったらいいのかお伺いしたいと思う。

→ （協働まちづくり部長）新設も含めてもう一度検討となると、これまでの取組が無駄になってしまう。

・ （新沼良治会長）私から言わせれば、この9月間は何だったのか。一言も連絡も来なかった。

→ （協働まちづくり部長）これまで、全協の後に野球協会も含めいろいろ意見交換もやってきて、この段階まで持って来たところである。野球協会とはなかなか、向こうは新設を望む、こちらは体育館を整備するから現状の大規模改修でいくという形で、野球協会と話をして、大規模改修となると野球協会との話も必要になってくるので、今後も意見交換をしていこうという形で終わった。喧々諤々ではなく、穏便にというかお互いに

考え方を出し合って、今後も引き続き意見交換をしていこうということで、野球協会とすれば、新設を諦めきれないから要望書とかを出すよと、こちらとしては受けざるをえないので、受けることにはなと思う。今言った話で、新設の話を盛り込むとなると、また場所だなんだという話も出てくる。我々とすれば、赤崎のことが一番目途がついてきたので、この形で進めたいなと思っている。

- ・（新沼良治会長）赤崎のことに目途がついてきたと言うが、私は全然聞いていない。聞いたのは5日前である。元々の赤崎は、今のサッカーグラウンドが野球場になる予定だったということで、それがある日突然やはりサッカー場になって、赤崎の人たちは非常に憤慨しているという話を聞いていたのだが、それがなぜサッカー場でなければいけなかったのか。サッカー場は大船渡で一番新しい施設である。隣を見渡せば高田に2面ある。野球場のことについても資料の中に他市町村と共同してとあるが、サッカーはそれができないのか。私は、老朽化した市営球場を考えれば、サッカーは待ってもらってその分を足せば、何とか野球場があるいはできるかもしれないということで、野球場の新設の検討はしないのかという考えである。
- （協働まちづくり部長）野球場の新設の検討は、何回か申し上げたが、内部の方針の中で野球場の新築はなしということになってしまっているので、我々としても他のことを考えなければならないのが正直なところである。我々としてもこれまでもいろいろと検討してきた経緯があるので、何とかそこをということをいろいろと内部でもやり取りしている。ただし、内部でも理解が得られなかったので、こういう方針転換をして、皆さんと野球協会、スポーツ協会、いろいろなところと意見交換をしてきて、最終的には赤崎地区と1月15日に意見交換をしてきて理解を得られたところで、ここの場に提案したところである。
- ・（新沼良治会長）赤崎町民からその話は聞いたが、野球の話は出ないで、サッカーの話があったという話で、その持って行き方がどうなのかなと私は思っている。元々赤崎の方々は野球という思い入れは強かったのかなと。
- ・（栗村委員）今、いろいろな議論をしているが、簡単な話は、これは中間の見直し案ということで、案を出すに当たっては、いろいろな各方面と話をしたり、役所の立場もあってとか、競技者の立場だったり、テニスコートの件に触れたのと同じで、広域的なことを踏まえれば、高田に立派な球場がある。隣の平田にも立派な球場がある。それに意地を張って、大船渡にも立派なものがなければならぬのかと考えたときに、そういう意見の方もあろうし、市の人口の推移もあるだろうし、予算の件もあるだろうし、だからこれは見直しをかけながら、今日のこの審議会の案としてこれは提出したということで、そこで納めていって、この先も協議があるのであればとか、であればまた関係各位の話をいただきながら進めて行くというのが、今の部長の話なのだろうから、結局これを明日にやるよというわけではないのだろうから、後期期間の見直しということでこうだよと、これを策定するに当たっては、先ほど言ったとおりであって、新沼会長がおっしゃることは、ご最もなのだと思う。ただ、連絡がきていないとか、後でその他で触れようと思ったが、一つだけ新沼会長がおっしゃる言葉の端々の中で、ご挨拶にあった、この審議会の開催時期のことを踏まえての話の中で、それというのは、簡単な話、市の議会運営との絡みがあるということか。
- ・（新沼良治会長）5月の開催というのは、にっちもさっちも動けない時期だったと思う。その後に、議会の全員協議会が待ち受けていたと、その全員協議会の球場の情報が議員さんたちに伝わっていなかったということで、混乱したということ聞いた。そういう事情があって、例えばここで決まらない場合だってあるわけで、そこで決まらなか

ったら次回に審議しようという時間があっても良かったかなと思うという意味合いである。

- ・（栗村委員）ということは、これは見直しの案ということだろうから、後は今からいろいろな形で進めていくという方向性があるという話でよいか。
- ・（新沼良治会長）何回も言っているが、お金のないところで、ゴリ押しはしないが、だけど物事の進め方があると思う。その進め方はもう少し検討していただいてもいいのではないかなと思う。こういうことを誰かが言わないとそのままになってしまうので、それが大船渡市としての正しい姿だと思う。私がいっぱい話をしたけれども、皆さんの方からのご意見を吸収しながら、それこそ民意というのは何なのか、それがあっての市だと思うし、国だと思うので、そういうところで強調したかったところである。
- （協働まちづくり部長）進め方等でご指摘いただいたものは、そのとおりだと思う。今後も例えばこの案は出したとしても、いろいろと意見や関係団体等との協議は必要に応じて対応していくので、とりあえずまずこの形で進めさせていただければと思う。
- ・（谷山委員）私は野球協会の役員だが、どうしていったらいいものと聞いていた。
- ・（新沼良治会長）別な案件が出てきて、事務局からは赤崎案はないところである。
- （協働まちづくり部長）赤崎案というか、ちょっと、言い方は足りなかったかもしれないが、この間の野球協会が来たときは、赤崎に市営球場を新設してほしいというのが野球協会としての要望だと言われた。伝え方が悪かったかもしれない。
- ・（新沼良治会長）その辺の情報は、我々は会議に出ていないから分からない。悪い言い方をするといいところを摘み取って話をすることはできるわけで、別に私たちは大船渡市を悪くしようという集団ではないので、そういう情報を、必要な情報をきちんと私たちに伝えてくださいということである。そういう意味での冒頭に挨拶で話したが、伝わっていなかったなので、私は事務局がどうかなという気持ちでずっと考えていた。
- （協働まちづくり部長）こちらの情報の出し方が悪くて、隠していたわけではないが、必要な情報はオープンにするようにする。隠していたわけではなく、9日にやったときにはきちんとそのように言われて、その案はもう盛れないと、お互いに話し合って終わった段階だったので、喧々諤々までは少なくとも我々は認識は持っていない。
- （生涯学習課長）私の方からも申し上げる。まず、市民体育館と市営球場を新築することが、市の財政上、将来の次世代の大きな負担になる。各競技団体の皆様の意見を全てそのとおりできる状況ではない。そのとおりにした場合は、かなりの歳出超過の状態になるという状況である。陸前高田市に素晴らしい一本松楽天スタジアムができた。宮古にも素晴らしいスタジアムができた。今、縦貫道もできて1時間くらいで行ける状況である。大船渡市の市営球場も同じように宮古や陸前高田のように、なぜ整備できないかということだが、幸いにも震災津波を免れたということで、陸前高田も宮古も大変な思いをして、あのような立派な施設を復旧させたわけで、国の支援を受けていて、大船渡では国の支援を受けていないということでの違いがあることを皆さんに分かっていただきたいと思う。それから、それぞれの地区の思いもあるが、赤崎地区、末崎地区それぞれからの要望、ご意見を伺っている。その中で私たちも責任を持って、案を提案していく中でのこれが最善だということで考えて今回提案するものである。当初計画の中で変わっているものはテニスコートの件、中学校の統合も末崎中学校の校舎が使われなくなる状況も出てきているし、これからもいろいろな状況変化はあると思うが、当初計画からの変更点としては、そういうところが状況として変わってきている。会長からあった、なぜサッカーなのかということだが、今、赤崎グラウンドだけが利用者が伸びていて、すごく使われている状況であって、陸前高田も宮古も私たちもそうなのだが、これ

から施設整備したときの維持管理というのが課題で、その課題にどう取り組むかという
と、利用者からいただく使用料でなるべく賄って皆さんからいただいた税は使わないと
いうことが、一番効率が良いと思っている。そういう意味でサッカーグラウンドが一番
有効だということで、最善の策だということで案をまとめたところである。

- ・（新沼良治会長）サッカー場を造って、大船渡市が潤うのか。
- （協働まちづくり部長）大船渡市が潤うかということ、大船渡にお金が落ちるそういう
賑わいの創出に繋がるのは、今の状況ではサッカーではないかと考える。そこが一番ベ
ターかなと考える。
- ・（新沼良治会長）今から人口減少が予測される中で、今の赤崎グラウンドは小学生、
高校生の使用頻度が多いようだが、これは人口が減っていく中で将来どういうふうにな
るのか、難しい問題なのだが、その辺りの読みはいかがだろうか。サッカー人口で、い
ずれ立根小学校にはサッカー部はないし、減っていくと思われる。そういう中で、ど
ういう形で運営するのか、よく分からない。
- （協働まちづくり部長）どの競技も、全体的に競技人口は減っている。それは人口減
少もある。その上で、交流人口というか、他の自治体から来たりして、いろいろと活動
が活発なのが今はサッカーだなど、我々とスポーツ協会もそういう意見で一致してい
るので、少なくとも将来的に全体的な利用はもしかして落ちていくかもしれないが、それ
でも他の競技に比べれば、単一の競技でそれなりに維持していけるのはサッカーだなど
いうふうに考えたところである。野球もバレーもバスケも必然的に人口が減っているし、
サッカーは部活動がないにしても、クラブチームが立ち上がっているの、そういった
点で言えば、サッカーをあれするわけではないが、そういった点で言えば、そんなにチ
ーム自体が減ってしまうということは、少なくともないかなというふうに考えている。
野球もそれなりに、なんだかんだ言っておいて野球人口が多いのだが、多いがために
減少率が目立っているのが正直ある。どっちがいいかというわけではないが、そうい
ったところを考えると野球場を新たに造ってどのくらいというところが見えないので、野
球協会の会長は高校野球が来ればこのくらいというふうなことを言っているが、それだ
って高校野球時期だけの話なのかその辺が分からないし、とりとめのない話になったが
なかなか将来的な推計を今この場で何かデータとして示せと言われても、なかなか難し
いかもしれないが、現状では将来的にみるとサッカーが一番市にお金を落としてくれる
のではないかと想定しているところである。
- ・（新沼良治会長）私も体育人なので、サッカーを否定しているわけではない。サッカ
ーをやる人たちがいい環境でプレイできるのであればうれしいことだと考える。
- ・（栗村委員）会長が何度かおっしゃっているスポーツ審議会の意義みたいなものは、
市民の一人として、やはりあるべきである。
- ・（新沼良治会長）それは前回の会合の中身はそういう形にならなかったもので、もう少
しやり方があるのではないかという私からの苦言である。ここが崩壊したら大船渡市の
スポーツは大変だと思う。言ってみれば市の一方的な案では駄目だということだと思う
が、そこは市と市民が同じ立場で話をしながら進めていくということが基本だと思う。
市の方で新設は難しいと捉えておきながら、それも含めて検討事項にすることはできな
いものか。
- （協働まちづくり部長）それも含めてというのは、新設の余地を残せということか。
- ・（新沼良治会長）0.1%でもいいのだが、状況や環境が変わればという話があるので、
そういうところに一縷の望みはないものか。
- （協働まちづくり部長）正直言って、新設の余地をどこかに残すというのは、ちょっ

と難しいなと思う。

- ・（新沼良治会長）それは先ほどの赤崎グラウンド、野球協会の希望もあるので、それも含めて、それが実現するかしないかは別として、それもありかなと私は思う。
- （協働まちづくり部長）おっしゃりたいことは良く分かるが、少なくともこの計画の中に新設の余地をどこに残すというのは無しにしたいと思う。例えば野球場について、大規模改修を目指すということであればいいのだが、状況によっては建替えについて検討するとかという余地としては、また、方針がぶれるので、そういう形としては出したくないと、出すのはよろしくないこちらとしては考えている。
- ・（新沼良治会長）そろそろまとめなければならないので、大変申し訳ないが一言ずついただくことはできないか。
- ・（東委員）大船渡市民がスポーツを通じて、前に進んでいけたらと思うので私としては、野球も好きだし、サッカーも好きだし、一つのことにこだわっていってしまうと、次のところに目が向かないという不安なところと、やはり大きな大会があることによつての大船渡市が潤うところも希望するし、かといって財政的にかなり困難であることも認識していて、宮古、高田なんかは被災して国の補助があつてというところも踏まえて、そこまでは大船渡市は至っていないので、かなり前向きに議論しても厳しいのかなというところで、お話を聞いていた。
- ・（金野委員）経緯は分からないのだが、現実的には予算もあるだろうし、厳しいかと思う。なので、市の出した方針案で進めていくと。要望は要望でやっていくと。それで変わるかわからないかは、協会としてもあれだろうが、逆に現実的にはこれで通していくしか治める方法はないのかなと考えている。
- ・（谷山委員）他の市町村に行くと、立派な体育館があつて、立派な野球場があつて、なぜ大船渡だけないのかなと、予算の取り方というかそういった方法をもっと考えていかなければならないのではないかと思った。
- ・（木下委員）私は野球もサッカーも普及していただければなという思いもあるが、市の方で計画変更を考えて、まだ中間なので、この中間を基にいろいろな検討しなければならないところがあると思う。そこを検討しつつ、これだけでは全部が全部100%というわけではないので、野球関係団体との検討事項があるので、検討しつつお互いがいいところを目指して、大規模改修というふうなところは目指した方がよろしいのではないかと思う。
- ・（渡辺委員）スポーツはあれがいいとか、これがいいとかではなく、スポーツ自体を皆で楽しむことがすごく大事なのではないかと考えている。スポーツをやれる場所が大船渡市にあつて、そこでたくさんの市民や子供たちが活動できるためには、どうしていったらいいのかなというところについて、みんなで建設的な考え方をし合えたらいいのではないかなと考えている。今回このようにきちんとしたエビデンスを取りながら、基本計画を出していただいているところなので、ここに至るまでの案を作成していくときの透明性というか、どこまでは公表してどこはという部分について、出せること出せないことがあると思うが、このスポーツ審議会では、もう少しクリアな感じで、こういうことでこういうようにしてきたというようなところ、これまでの道筋とか、だからこういうような考えなんだというところがもっとクリアになっていくと、話合いのときにもお互いの様々な考えを計上した上で、ベストなものが考えられるのかなと感じた。こちらの基本の中間見直し案に私は賛成するし、そして、それぞれの考えるところがあるというところについては、きちんと声を上げていく、それを吸い上げていただくというところを今後続けていければと思う。

- ・（新沼良治会長）これをまとめると、更に検討を加えていくということで、事務局案を承認という形かなということではいかがでしょうか。
- ・（委員から「はい」との声あり）
- ・（新沼良治会長）私が今回お話をして、会議が大変長くなったことをお詫びする。気持ちは大船渡市のスポーツにあるので、今後ともよろしく願います。これで私の司会を終わる。

3 その他

- ・（渡辺委員）私、綾里小学校の校長をやっている。綾里小学校は毎年、市内の小学校の陸上競技記録会を運営する小体連の会長を仰せつかっている。令和6年度は9月末に皆さんのご協力を得まして、スポーツ協会、陸協さんとかの協力を得まして無事にやることができた。毎回、毎回今年度の反省で出てくることが、陸上記録会を行うB & G三陸運動公園に子供たちを輸送するためのバスを借り上げるのにもすごくお金がかかるということをごこの学校からも言われている。半日で14万円なので、行く子供たちは、大体が5、6年生なので、5、6年生の頭数で割ってという形でやっているのだが、それぞれの学校でやはり大きな費用になるので、PTAから少し補助を出すとか、そういうふうな工夫をしながらなんとかやっているという状況である。大船渡の子供たちは大船渡の未来の宝だと思うので、そういう子供たちの活躍する場所、これをきっかけにして運動は楽しいと思って、運動を続けていきたいなと思える素地づくりにもなってほしいという思いで陸上記録会をやっているのだから、そういう子供たちのためにバス代を何とかしてくれとは言わない。何か違う形でもいいので、市内陸上記録会をバックアップしていただけるようなことを皆さんの中で少し、こういうことをしたらいいよというのがあれば次回のときにお話ししていただけたらと思う。距離と時間となるので、兄弟がたくさんいる家庭だと一家庭の負担が大きくなる。教育委員会にもお話をさせていただいて、教育支援バスというのがあるので、いわゆる通学バスとか、遠足とか校外学習で使わせていただいているのだが、陸上記録会だと、朝早くからたくさんの学校となるので、何かいい方法があればと思っている。
- （生涯学習課長）教育委員会とそこは話し合って、何か支援ができることがあればと思う。
- ・（栗村委員）大船渡市議会議員の方たちは、体育施設とかほぼほぼこういう中身を分かっている方はいるのか。
- （協働まちづくり部長）この内容ということであれば、議員にはまだ公表していない。
- ・（栗村委員）市内のスポーツ施設が何十年も経って老朽化している。それが今の時代に合っていないということを理解している議員がいるのか、いないのか。
- （協働まちづくり部長）それは、皆さん理解していると思う。今回の話だけではなくて、当初計画を立てたときから、折を見て話をしているので、基本的には分かっている。
- ・（東委員）内外から各施設に来る人にアンケートを配って、アンケートで意見を吸い上げていくのもいいのではないかなと思う。
- ・（栗村委員）ポートサイドバレーでは、出場参加したチームにアンケートを出したらほぼ返ってきている。そしたら、施設、宿泊、食事とかを含めて、いい大会になっているので、続けてくれと来ている。今までアンケートはもらわなかったが、今は案内を出すときにメールなどでやっている。
- （協働まちづくり部長）長時間にわたり、様々なご意見に感謝する。その上で皆さんからご指摘があったように、この会議に至るまでの透明性をきちんと示してほしい

というご意見もあったので、こちらとしては隠しているわけではなかったが、その辺は誤解のないように、これからはもう少しお示しするようにしていきたいと思う。

4 閉 会